



「心不全」という言葉はよくお聞きになると思います。

心不全とは、病気の名前ではありません。何らかの原因で心臓の機能が低下して、体に十分な血液を送り出せなくなった状態のことを呼びます。

心不全の症状は、

心臓が弱り十分に血液を送り出せなくなるので……

- ・体に必要な酸素が足りなくなるので、息切れしやすくなり、疲れやすくなります。
- ・細い血管に血液が行きわたりづらくなるので、手足の先が冷たくなり肌の色が悪くなります。

血液をスムーズに流せなくなるので……

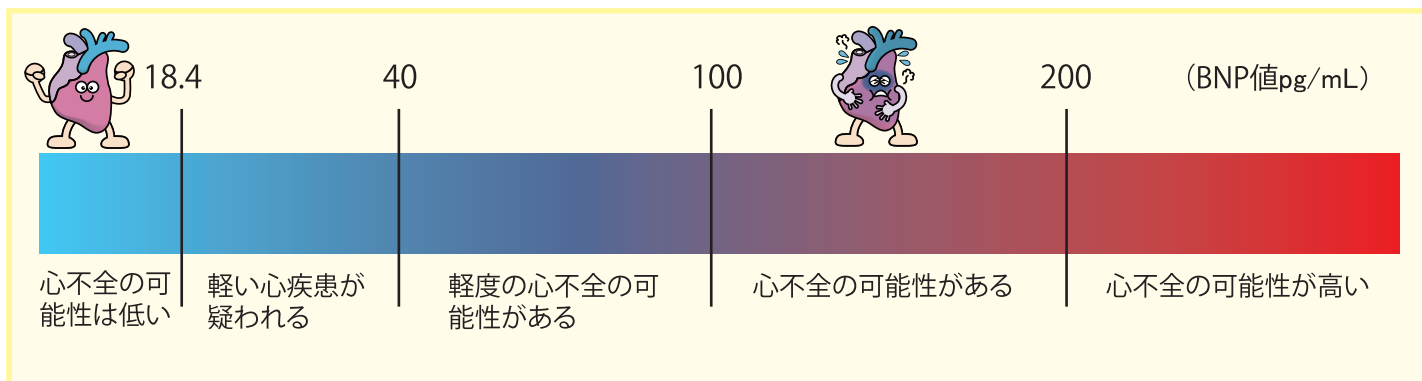
- ・腎臓の血流が減るため尿の量が減り、体全体に水分が溜まり体重が増えます。
- ・足の甲や脛が浮腫みやすくなります。
- ・肺に血液が溜まり(肺うっ血)、息切れや呼吸困難を起こします。
- ・心臓が大きくなります。

心不全は、一つの検査だけで判断することは困難です。問診、身体所見や自覚症状をもとに、心電図、胸部レントゲン、心臓超音波検査(心エコー検査)、CT検査、血液検査などを行います。

今回はその心不全に関する血液検査の一つとして、BNPという検査項目についてお話ししたいと思います。

BNPとは、「脳性ナトリウム尿ペプチド」と言い、心臓を守るため心臓から分泌されるホルモンの一種です。血圧を下げる降圧作用と、水分を体外に出す利尿作用があり、心臓に対する負担を軽くする働きをしています。ですので、心臓に負担がかかると多くのBNPが分泌されます。心不全のように心臓の機能が低下していればもちろんですが、他にも高血圧や代謝異常(甲状腺機能低下症や亢進症)などでも高値を示すことがあります。

当院の基準値は、18.4pg/mL以下です。100pg/mL以上になると治療が必要となってくる場合があります。



血液検査はあくまでも診断指標のひとつであり、同じ数値でも患者さん個々の状態により評価が異なります。先に上げた画像やCTなど、ほかの検査結果と照合して総合的に医師が判断するものであることをご理解ください。